

# 伊丹ルーテル教会四旬節第1主日礼拝

## 2021年2月21日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 25 編 4-11 節

主よ、あなたの道をわたしに示し | あなたに従う道を教えてください。  
あなたのまことにわたしを導いてください。  
教えてください | あなたはわたしを救ってくださる神。  
絶えることなくあなたに望みをかけています。  
主よ思い起こしてください | あなたのとこしえの憐れみと慈しみを。  
わたしの若いときの罪と背きは思い起こさず  
慈しみ深く、御恵みのために | 主よ、わたしを御心に留めてください。  
主は恵み深く正しくいまし | 罪人に道を示してくださいます。  
裁きをして貧しい人を導き | 主の道を貧しい人に教えてくださいます。  
その契約と定めを守る人にとって | 主の道はすべて、慈しみとまこと。  
主よ、あなたの御名のために | 罪深いわたしをお赦してください。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。  
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に  
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが  
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。  
(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・  
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ  
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお  
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

### 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

### 使徒書朗読：ペトロ第1の手紙3章18-22節

キリストも、罪のためにただ一度苦しめられました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しめられたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。そして、霊においてキリストは、捕らわれていた霊たちのところへ行って宣教されました。この霊たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通過して救われました。この水で前もって表された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。洗礼は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです。キリストは、天に上って神の右におられます。天使、また権威や勢力は、キリストの支配に服しているのです。

### 福音書朗読：マルコによる福音書1章9-15節

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。それから、“霊”はイエスを荒野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒にいられたが、天使たちが仕えていた。ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

### 讃美歌 122番

- 1 みどりもふかき 若葉の里、ナザレの村よ、汝(な)がちまたよ  
心 清らに 行きかいつつ、育ちたまいし 人を知るや。

2 その頭(こうべ)には かむりもなく、その衣(ころも)には かざりもなく、  
人の住いを 整えつつ、主は若き日を 過ぎたまえり。

3 人の子イエスよ、君の御名を み使いたちの ほむるときに、  
恵みににおい 愛にかおる み足のあとを 我はたどらん。      **アーメン**

### **説教：「イエスは誘惑を受けられた」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日は教会の暦によると四旬節第1主日です。昨年11月の最後の主日から、毎週の礼拝でイエス様のご生涯をたどってまいりました。イエス様はまことの神さまですが私たちのために人となってくださいました。そして私たちのために苦しみ、十字架で死んでくださり、また三日目によみがえってくださいました。先週水曜日は「灰の水曜日 (Ash Wednesday)」と呼ばれ、イエス様のご生涯の締めくくりとして十字架に向かって歩まれたことを覚えます。

今日はイエス様が誘惑を受けられたことには、私たちを強めるという意味があったこととお話しします。肉体と心を分けることのできない私たちは、この世にあって毎日暮らす中で、いつも深いところで誘惑や試練に会い、時には生きていくための土台をゆすぶられて歩んでいます。そのような私たちをご存じて、イエス様はご自分が誘惑に会ってくださることによって私たちの信仰を支え強めてくださいます。

まずはマルコによる福音書の文脈を見てみましょう。マルコによる福音書は神の子イエス・キリストの福音のはじめ、という書き出しで、すぐにイエス様が来られることを先駆者として預言し、人々に悔い改めの洗礼を訴えた洗礼者ヨハネが登場します。そして、そのヨハネからイエス様が洗礼をお受けになったところから今日の箇所が始まります。天が開けて聖霊が鳩のようにイエス様の上にくんだり、父なる神様の声が天から聞こえました。父なる神様はイエス様のことを「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなうもの」と言われました。

12節には、「それから」すぐにイエス様は霊に導かれて荒れ野に導き出されたと書かれています。そこで40日間とどまってサタンの誘惑を受けたこと、その間、野獣と一緒におられ、天使たちがイエス様に仕えたという光景がわかります。進んで14節では洗礼者ヨハネが捕らえられてしまったことを受けて、イエス様が先駆者の働きが満了し、時が満ちたことを悟られたことが記されています。そのとき「時が満ち、神の国は近づいた、悔い改めて福音を信じなさい」と宣べ伝え始められました。

イエス様は罪の支配に苦しむ私たちと同じになられ、洗礼をお受けになりました。ご自分は罪を犯されませんでした。これから歩む十字架への道は、罪びとの私たちのためであったこと

がわかります。そのために父なる神様はイエス様を世に送って下さいました。聖霊はイエス様にともなっていました。

するとどうでしょう。聖霊はイエス様を荒野に追いやりました。ヨハネは荒野で悔い改めを叫んでいました。人里離れた寂しいところです。そこでイエス様は40日間とどまられてサタンの誘惑を受けました。

40という数は苦しみを表します。モーセがシナイ山で十戒をもらったとき40日40夜そこにとどまりました。そして民は約束の地に入るまで40年間荒野をさまよいました。預言者エリヤは神の山ホレブまで40日40夜歩きました。イエス様は40日間、そこで危険と飢えや乾きと闘い、孤独と誘惑にさらされました。このことを覚えて毎年イースターを40日さかのぼる水曜日を「灰の水曜日」とし、イエス様の苦しみがわたしのためであったことを覚えて、祈り深く過ごすようにします。40日、というのが四旬節という名前の由来です。

さて、イエス様が私たち人間に神の国をもたらす救い主でいらっしゃるなら、お働きを始めるにあたりすぐにガリラヤ湖畔の町々を行き巡り、エルサレムやサマリヤを歩くべきではなかったのでしょうか。人里離れた荒野に引きこもって40日間も過ごされるのではなく、むしろ、大勢の苦しむ人々が暮らしている町や村に行くべきではなかったのでしょうか。なぜ洗礼のときにイエス様に鳩のようにくだったくださった聖霊は、すぐに荒野に導いたのでしょ

うか。それは、私たちの苦しみの現場にイエス様が来てくださることを意味しています。それで霊に導かれて荒野に来られたのです。そこでイエス様は肉体的な苦しみを耐えつつ、悪魔の誘惑を受けています。荒野では生き残っていくためにがんばらなければなりません。また、太陽と地面の間に自分しかいないような、大きな孤独を体験します。私たちの日常にはそのような面がないでしょうか。私たちの暮らしもつまるところ孤独で、生存の戦いをしながら、自分と向き合い、向き合いきれず気晴らしをして生きているという面がないでしょうか。

私たちは苦しいことがあると、なぜ、と問います。なぜ私にこの痛みがあるのか、と苦しみの意味を問います。その中でサタンは私たちを神様から引き離し、神様なしの人生しかないと言います。マルコと関係の深かった使徒ペテロは、その第1の手紙を閉じるにあたって「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。」と警告しています。

痛みの中で私たちは自分自身と向き合います。厳しい状況の中に身を置くと、自分の力ではだめだと思ひ、また、自分の性質ではだめだと思ひます。イエス様は荒野で40日を過ごして下さいました。あなたの孤独と苦しみの場に、主イエス様ご自身がいて下さいます。

洗礼を受けて私たちの罪を引き受けて十字架に向かって歩み始めて下さったイエス様は、私たちの暮らしの苦しい現場に身を置いてくださったのです。すぐには意味の理解できない苦しい現実の中でもがいて泣きはらしていても、そこにイエス様がいて下さると聖書は語ります。もはや神様を探す必要はありません。苦しみの中でこそ、私たちの苦しみを担い、私たちの救いを全うする約束を果たしてくださったイエス様に、私たちは苦しみの重荷を下ろすことができます。ここに希望があります。

使徒ペテロの手紙の前後を読みます。「思い煩いは、何もかも神にお任せなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみに遭っているのです。それはあなたがたも知っているとおりで。しかし、あらゆる恵みの源である神、すなわち、キリスト・イエスを通してあなたがたを永遠の栄光へ招いてくださった神御自身が、しばらくの間苦しんだあなたがたを完全な者とし、強め、カづけ、揺らぐことがないようにしてくださいます。力が世々限りなく神にありますように、アーメン。」

苦しみの中にいるとき、私たちは自分に向き合わざるを得ません。しかし、ヘブル人への手紙2章18節に「イエスさまご自身が試みを受けられたから、試みの中にいる私たちを助けてくださることができる」とあるように、イエス様ご自身が試みを受けている私たちを助けてくださることを、私たちは信仰によって経験します。

イエス様は洗礼者ヨハネが捕らえられた知らせを聞きました。人々が先駆者に耳を傾けるときは満了して、ご自分のときが来たことを知られました。イエス様はいよいよ荒れ野からガリラヤ地方の町へお出かけになりました。「時は満ちた」と言われ、神の国が近づいた、と言われました。

イエス様のメッセージは、神の国は遠くにあるのではない、あなたががんばっていたらいつか神の国を経験できるようになるかもしれないと淡い期待を持つのではない、あなたの苦しみをご存じのイエス様があなたに近づかれることで神の国が近づくのです。イエス様は洗礼者ヨハネが水ではなく霊によって洗礼を授ける方だと預言した救い主なのです。

イエス様は「野獣とともにおられた」とあります。旧約聖書のイザヤ書11章には天の御国が完成するときには狼は子羊と共に住み、豹は子羊と共にすごし、幼子も戯れると書かれています。イエス様のいらっしゃる場所に神の国が成就します。あなたの苦しみの現場にイエス様が来てくださっています。そこに新しい現実である神の国を成就してくださいます。「天使が仕えて

いた」とあります。ヘブル人への手紙1章24節にあるように、神様は救いを受け継ぐ人々に仕える天使を送ってくださいます。

苦しみに会うとき私たちは弱っています。そこで悪魔の攻撃にあうと、私たちはつい神様の主権と神様の愛を疑ってしまいます。神様を忘れ、神様から離れて生きるように誘われます。深い希望や喜びを失い、心細くなり世のむなしさと圧力につぶされそうになります。そこに痛々しく傷ついた無力な自分を見ます。そして諦めてしまいます。人生の満足の度合いを低めて、自力に頼るしかない自分中心な生き方に変えてしまいます。

イエス様の救いは、そこから自力で這い上がる者に与えられる、というわけではありません。そうではなくて、40日荒野にとどまられたイエス様が、神様から離れて苦しみの中にいる私たちのところに来てくださいます。悪魔の攻撃にさらされ、人生の意味のなさにむなしさを感じ、いつも何か満たされない思いに支配されながら、人々の間では自分が自分中心であることを隠さないと生きていけないという苦しい歩みの中で、どこにも出口の見えない私たちのところに、イエス様が来てくださいました。イエス様が来てくださるところに神の国が近づくのです。

苦しみの中で、あなたのために苦しみを担いきて十字架で死んでくださったイエス様に出会います。イエス様と一つになって、神様によみがえりの命をいただくことだけが救いです。洗礼者ヨハネは、イエス様は水ではなく霊によって洗礼を授けるといいました。私たちは苦しみに向き合わざるを得ません。世界の矛盾と自分の無力や罪深さを意識します。しかし、イエス様とひとつになる洗礼によってそこに来てくださっている救い主のイエス様に出会います。

イエス様は「悔い改めて福音を信じなさい」と言われます。悔い改めるというのは、自分の罪を認めることです。自分の性質は自分中心でわがままであることがわかっているにもかかわらず、まだ自分よりもあの人の方が、この人の方が悪い、と自分の罪の自覚に向き合いきれないような、どこまでも自己中心なのが私たちの姿です。また、理想の自分になったら救われるのではないかと救いを遠くの目標にしてしまいがちな私たちです。神様のみ前での自分の姿を認めて、今日、悔い改めましょう。そして福音であるイエス様を信頼しましょう。あなたの苦しみをご自分で引き受けて、あなた自身を引き受けて下さったイエス様が、罪を赦して復活のいのちにあなたをともなってくださいます。イエス様に信頼しましょう。

苦しみの中であなたが新しい命にみなぎらせていただくと、あなたは賛美と感謝と喜びと愛に満たされていきます。自分のことだけではなく同じ苦しみの中にあるあなたの大切な人、辛さや苦しさを見続けることができず何かでごまかし続けなければいけない人を、忍耐をもって心で寄り添って、神の国が近づいたことをお知らせしていきたいですね。野獣のいるところが、獅子に攻撃されるのではなく、やがて成就されるうるわしい神の国の姿を見るようになりますね。

祈りましょう。「愛と恵に富たもう父なる神様。感謝をいたします。私たちを愛してイエス様によって罪と死と悪魔の力から解き放ち、復活の命に漲らせてくださいました。イエス様が今週も共に歩んでくださることを感謝いたします。苦しむ方々の傍らに寄り添い、主イエス様の救いを証しする一週とさせてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

### 讚美歌 270 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 信仰こそ旅路を 導く杖、弱きを強むる かなれや。  
心勇ましく 旅を続けゆかん、この世の危(あやう)き 恐るべしや。
- 2 わが主を頭(かしら)と 仰ぎ見れば、力の泉は 湧きて尽きず。  
恵み深き主の 御傷 みまつれば、わずかに残る火 ふたたび燃ゆ。
- 3 主イエスの御跡を たどりゆけば、けわしき山路も 安けきみち。  
いかで迷うべき、などで疲るべき、ますぐに御神へ 近づきゆかん。
- 4 信仰をぞ わが身の 杖と頼まん、鋭き剣も くらぶべしや。  
世々の聖徒らを 強く生かしたる 御霊を我にも 与えたまえ。      **アーメン**

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

### 頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏